



横須賀商工会議所

6次産業化を応援!



「産農人」1期生とサポートメンバー。林にある「ヨコスカアグリファミリー」の農場で

## 挑むは「攻め」の農業

横須賀商工会議所の旗振りで、経営感覚を身に着けた新時代の農業人の育成が行われている。市場分析や加工商品の開発などを手掛けるマーケットセンスを持った人材を「産農人」と命名。農業を志す高校生に実践の場を提供して、戦略的な農業経営を学んでもらう試みだ。昨年10月の発足から約1年。参加する生徒の意識に変化が生まれつつある。

### 作るだけで終わらない

「産農人育成プロジェクト」は同商議所を主体に、業科、横須賀の若手農家、飲食店、食品大手のカゴメで組織。農作業の技術習得だけでなく、野菜の加工技術や飲食店でのメニュー開発など多岐にわたる分野を学べるプログラムを授業の一環として

用意している。プロジェクトメンバーの1人で生徒らを畑に迎え入れてくれる鈴木優也(鈴也ファーム)さんは種を蒔く段階から収穫した野菜の最終的な利益を想定し、計画的に仕事を組み立てていくことを伝え「いる」という。これまでに農作物を商品化する食品加工の現場を訪れて、燻製や真空パック、スライサーも経験。イベントやバザールに出店し、対面販売で消費者と直に会話を交わす機会も得た。これらすべてが6次産業化を視野にした学びに繋がっている。同プロジェクトは、農作物の生産にしか意識が向かなかつた生徒の興味や関心を広げるなど、新たな気づきの場にもなっている。実家がイチゴ農家という長島未歩さん(2年)は、食品加工場の見学を通して、「ムースやアイスクリーム、シャーベットにしたら」とのアイ

### 「産農人」育成プログラム

決まった作物を生産する従来型の農業人

### 産農人育成アカデミー

農業法人/農業インターンシップ  
専門家/起業・企画・経営手法を伝授  
商議所/マッチング支援とマーケティング支援

### 産農人

市場を分析しニーズに合った作物を生産・流通させるマーケット感覚を持った農業人

### 高校生ファーマー 齋藤輝さん

## 「消費者を意識して生産」



朝8時の「すかなごっそ」。出荷に訪れた生産者が店内をせわしく動き回る中に、齋藤輝さん(3年)の姿を見つけた。週末を中心に自分の畑で育てた野菜を持ち込んで販売している。

祖母を手伝う形で小学生の頃から畑仕事に関わってきた。「産農人」に参加してからは販売や流通の面白さにも開眼。「値づけや陳列場所によって売れ行きが違う。宣伝POPづくりも挑戦したい」。先ごろ収益の中から中古の洗浄機を購入。「作業効率をアップさせる」とすっかりプロの顔だ。

## 「美味しい」をつくる

9月から始まる後期実習に向けて、プロジェクトメンバーが大滝町の横須賀ビールに集まり決起会(ランチミーティング)を開いた。同店では「産農人」の研修農場である鈴也ファームの野菜を使ったメニューを提供。生徒らが生産に携わった白ナス、バターナッツかぼちゃ、ししとうをトッピングした「海軍カレー」を味わいながら野菜の最終形態(出品)を確認した。秋元琉椰(2年)さんは、「今まで野菜の消費のされ方を意識したことがなかった。美味しく育てることをさらに考えてみたい」と意欲を見せた。

### 飲食店も学び場

